

普及活動情勢報告（平成29年9月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

～ハウス栽培にあうユズ系統は？～ 温室柚子部会が果樹試験場視察を開催



9月14日、JA土佐香美温室柚子部会の5名は、農業技術センター果樹試験場を視察しました。

今回の視察は、ハウス栽培に合うユズ系統を探索する一環として実施し、農業改良普及課が開催を支援しました。

栽培ほ場を見学しながら研究員から各系統の特性の説明を受け、「この系統の果形や樹勢はハウスではどうなる？」等と活発に質問をしていました。この視察の結果、いくつかの系統を試験導入してみることになりました。

農業改良普及課は今後も、試験導入系統のハウスでの特性把握等、JAや部会と連携しハウスユズの安定生産を支援します。

6次産業化を推進します ～6次産業入門講座「高知野菜の活用方法」の開催～



農業改良普及課は9月6日、中央東農業振興センターにおいて、6次産業化に取り組むグループの発掘のために、「6次産業入門講座」を開催し、農村女性リーダーや関係機関など44名が参加しました。

農業改良普及課からの6次産業化の情報提供と、野菜ソムリエ上級プロの西村有加先生による講演後、野菜料理を試食しました。流行している食べ方の紹介や、「加工品でも、野菜でも、食べ方をアレンジして提案することが大切」などのアドバイスを受けました。参加者からは、「情報を集めることが大事だと思った」「熱い思いをもった取り組みに考えさせられた」などの声がありました。

農業改良普及課は、今後も研修会などによる情報提供や加工品の開発・改良など6次産業化に取り組むグループを支援していきます。

果樹協主催「ハウスみかん」生産現地検討会 ～炭酸ガス施用で収量アップへ～



8月22日、高知県果樹研究協議会主催の「ハウスみかん」生産現地検討会が香南市香我美町で開催され、JA土佐香美温室みかん部会から16名が参加しました。

農業改良普及課は、炭酸ガス施用実証ほの収量及び糖度の推移を紹介しました。実証ほの収量は、炭酸ガス導入後3年連続で増加し、今作は導入前と比べて22%増収し、糖度も高い値を維持しました。

生産者からは「極早生品種では効果がある」「導入を前向きに検討する」といった声が聞かれました。3年間の実証結果を示すことで若手生産者を中心に、極早生品種での増収効果が浸透してきました。

今後も実証結果を活用して、極早生品種栽培農家を中心に導入を促し、炭酸ガス施用希望農家の増加を目指します。

GAP点検で出荷場を巡回



9月11日、JA南国市の集出荷場において、GAP（生産工程管理）の取り組みに対し、関係機関による点検を実施しました。

農業改良普及課は、園芸部役員、園芸連と一緒に点検項目に従い、JA担当者に3カ所の集出荷場における取り組み状況を聞取るとともに、日々の点検記録を確認しました。また、今回の点検では、園芸部役員3名も参加し、予冷库内外の管理状況等についても確認しました。

農業改良普及課は、GAPへの啓発活動および取り組みへの支援を行います。

～ショウガの安定出荷に向けて～ 栽培講習会の開催



9月8日、JA土佐香美生姜部が栽培講習会を開催し、生産者43名が参加しました。

講習会では、JAから病害虫防除や生産履歴の記帳、また農業改良普及課から収穫後の腐敗対策、産地・流通支援課専門技術員から新たな収穫・調整作業機の開発状況等を説明しました。生産者からは、防除が難しい土壌伝染性病害の対策や作業の省力に繋がる機械開発に期待する声が聴かれました。

農業改良普及課は、今後もJA等関係機関と連携し、ショウガの安定生産・出荷に向け部会活動を支援していきます。

集落を守る仕組みづくりに向けて～日ノ御子中山間直払集落協定座談会～



8月27日、香美市香北町日ノ御子中山間直払集落協定で座談会が開催され、関係機関を含めて15名が参加しました。

まず市から7月に実施した営農意向調査の結果報告と客観的なコメントがあり、10年後は高齢化や担い手不足がさらに深刻化することが分かりました。

農業改良普及課からは、まずは個人間の受委託の仕組みを組織で行う方法を提案し、組織化の意義を説明しました。

協定者から「このままでは農地を維持するのは困難。まずは耕作できなくなった農地の受け皿を作りたい。」「交付金を有効活用して水路等の補修を行いたい。」「非農家だが組織の事務をやってもよい。」などと前向きな意見が出され、組織化を検討することになりました。

今後は、関係機関と協力して日本型直払組織や他の集落営農組織との連携、集落営農組織の設立準備会等の支援を行っていきます。

～県を超えた交流が実現～ 物部・木頭ユズ産地交流会の開催



8月25日、JA土佐香美柚子生産部会の9名は、徳島県那賀町のユズ生産者との産地交流会を初めて開催しました。

交流会では、産地のブランド化、収穫時労力確保や新規就農者支援等の取り組みをお互いが発表し、意見交換を行いました。

生産者からは、「収穫時労力は足りているのか?」「ブランド化の取り組みをもっと知りたい」等、活発な議論がなされました。

農業改良普及課は、徳島県阿南農業支援センターと連携して開催を支援しましたが、今後もJAや部会と連携して産地交流の機会を増やし、他地域の取り組みを学ぶ機会を増やしていきます。

はちきん農業大学 中央東版 ～農業基礎講座を2講座開催～



9月12日、中央東農業振興センターにおいて「はちきん農業大学・基礎講座：「①農薬の基礎について」「②土の講義と簡易分析等」を実践しました。講座生15名と新規就農者1名の参加があり、それぞれの講座での質疑コーナーでは日頃の疑問に対して実践に役に立つアドバイスをもらいました。参加者の農業経験は様々ですが、「農薬についての基礎知識は、改めて、正確に認識できた」。簡易分析では、自分で分析した結果の値から導かれる施肥管理について「直接、アドバイスをもらえたので理解が進んだ」などの声がありました。

農業改良普及課は、今後も講座などを通じて受講生の経営発展に向けて計画的に支援していきます。

促成シシトウの生育が順調に進んでいます



促成シシトウの定植は、8月の後半から始まり9月の中旬にピークをむかえました。今年度は活着が良好で、順調な生育を示しています。

農業改良普及課では、現地検討会や巡回を通して、育苗期のかん水管理、根の状態による適期定植、植穴かん水、浅植え定植、定植後のかん水管理等の基本技術の徹底を呼びかけました。

生産者からは、「そのタイミングで植えてみようか」、「自分は樹の状態を見て植えていた」などの声が聞かれ、基本技術の見直しが進んでいます。

今後は、誘引、整枝方法、蒸発散量に応じたかん水管理、低位摘芯法等の指導を行う予定です。